

目次

I. 総括研究報告	1
水澤 英洋 (国立精神・神経医療研究センター)	
II. プリオン病のサーベイランス結果	23
III. 分担研究報告	
1. サーベイランスデータに基づくわが国のプリオン病の疫学像 (1999-2017年データ)	35
中村 好一 (自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門)	
2. プリオン病サーベイランスデータの管理・運用の研究	51
金谷 泰宏 (国立保健医療科学院健康危機管理部)	
3. サーベイランスの諸問題 (特に未回収問題と低剖検率) について	55
塚本 忠 (国立精神神経医療研究センター病院神経内科)	
4. 本邦の CJD サーベイランスにおけるプリオン病の脳波診断	59
黒岩 義之 (財務省診療所)	
5. プリオン病における画像診断基準の検討	63
原田 雅史 (徳島大学医歯薬学研究部)	
6. プリオン蛋白遺伝子コドン 129 多型が MM で、脳波上周期性同期性放電を認めず、 頭部 MRI 拡散強調像にて両側視床に高信号を認める孤発性または分類不能の Creutzfeldt-Jakob 病の検討	65
山田 正仁 (金沢大学大学院脳老化・神経病態学 (神経内科学))	
7. プリオン病サーベイランスにおけるヒトプリオン病の髄液中のバイオマーカーの検討	71
佐藤 克也 (長崎大学医歯薬学総合研究科運動障害リハビリテーション学講座)	
8. サーベイランス遺伝子解析	75
北本 哲之 (東北大学大学院医学系研究科病態神経学)	
9. V180I 遺伝性プリオン病における THK5351 ペットスキンの有用性	81
村山 繁雄 (東京都健康長寿医療センター神経内科・高齢者ブレインバンク・研究 所神経病理)	
10. 平成 29 年度 北海道地区のプリオン病サーベイランス状況について	85
佐々木秀直 (北海道大学大学院医学研究院神経内科)	
11. 平成 29 年度 東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況	89
青木 正志 (東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野)	
12. 新潟・群馬・長野におけるプリオン病の発生状況	91
小野寺 理 (新潟大学脳研究所神経内科学分野)	
13. V180I 変異を有するプリオン蛋白の生化学的特徴	93
三條 伸夫 (東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野(神経内科))	
14. P102L 変異を有する GSS の臨床疫学的検討 (続報)	105
村井 弘之 (国際医療福祉大学医学部 神経内科学)	

15. 最近の神奈川、静岡、山梨 3 県のサーベイランス調査結果	107
田中 章景 (横浜市立大学大学院医学研究科 神経内科・脳卒中医学)	
16. RT-QUIC 法偽陽性を呈し、脳生検にてシヌクレイノパチーと考えられた非プリオン病 症例	111
道勇 学 (愛知医科大学医学部 神経内科学)	
17. Gerstmann-Sträussler-Scheinker 病 (GSS) 症例の経験と今年度の近畿ブロック におけるプリオン病サーベイランス状況	115
望月 秀樹 (大阪大学大学院医学系研究科神経内科学)	
18. 中国四国地区におけるプリオン病サーベイランス	119
阿部 康二 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学)	
19. 最近 5 年間の九州・山口・沖縄地区のプリオン病サーベイランス解析結果	123
松下 拓也 (九州大学病院神経内科)	
20. プリオン病の二次感染リスク者のフォローアップに関する研究	125
齊藤 延人 (東京大学医学部附属病院)	
21. CJD インシデント調査困難事例への対応から考える CJD インシデントリスク保有可能性者 へのリスク周知方法の向上	127
太組 一朗 (聖マリアンナ医科大学脳神経外科)	
22. プリオン病患者・家族の心理社会的支援、および、遺伝カウンセリングのあり方に関する 検討	131
田村智英子 (FMC東京クリニック)	
23. プリオンタンパク質天然状態のプリオンタンパク質異常化抑制作用	133
桑田 一夫 (岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科)	
IV. 研究成果の刊行に関する一覧表	137
V. 2017年度活動報告	147
VI. プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班およびプリオン病の サーベイランスと感染予防に関する調査研究班合同研究報告会プログラム	159
VII. プリオン病のサーベイランスと対策に関する全国担当者会議	163
VIII. 剖検マニュアル・リーフレット	175
IX. 特筆業績	199
X. プリオン病インシデント調査資料	223